



ローミング事業者からみたIPv6対応状況

2011年6月22日

丸紅アクセスソリューションズ株式会社

VECTANT部門

余目 誠

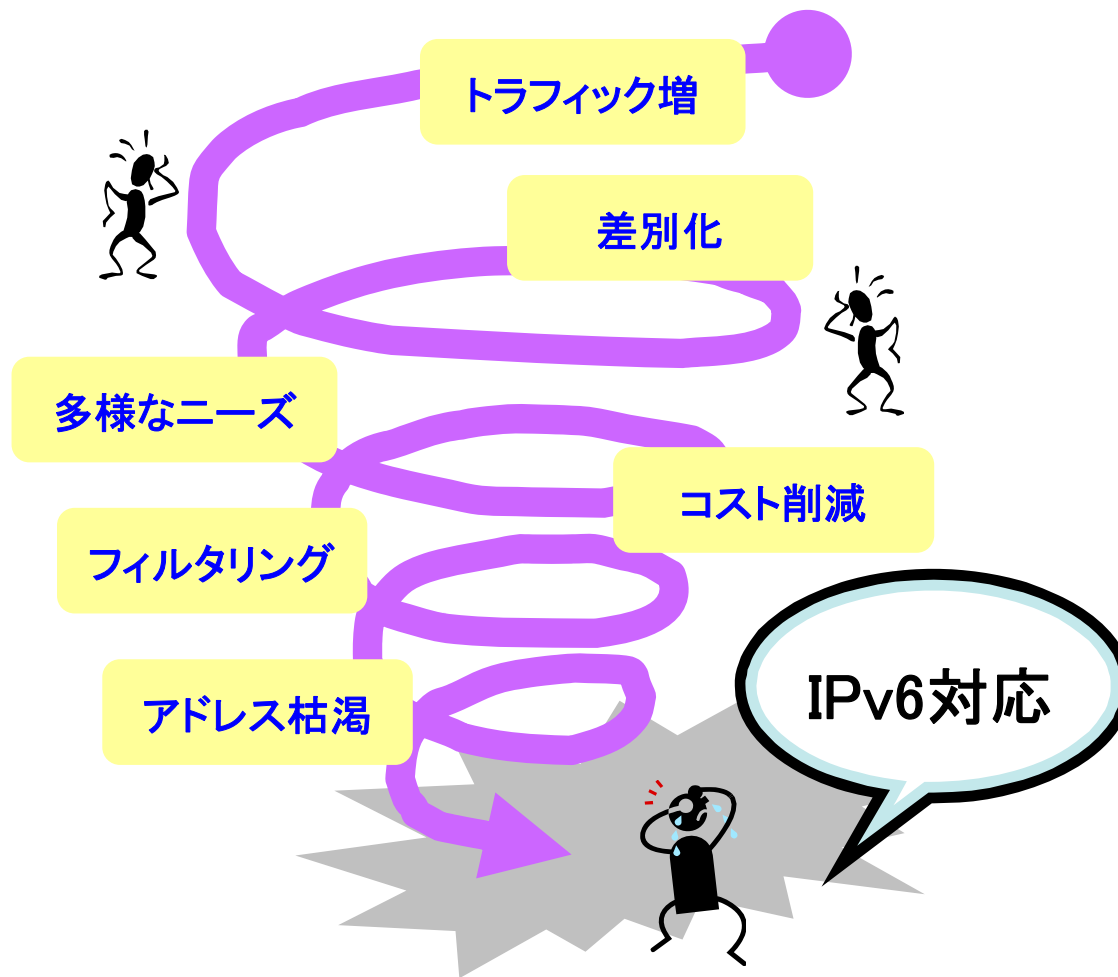
フレッツサービスとISPの対応の歴史

フレッツサービスの登場以降、ISPは積極的にメニュー化を行ってきた

	フレッツに関する主なトピック	ISPの対応
2000年	フレッツ開始	NTT東西との相互接続
	ADSL開始(1.5M)	
2001年	Bフレッツ開始	大容量化への対応
2005年	光プレミアム開始(NTT西日本)	相互接続(POI)の拡充
2008年	NGN対応 光ネクスト開始	新たな相互接続への対応
2011年	IPv6対応	新たな対応(IPv6)が必要

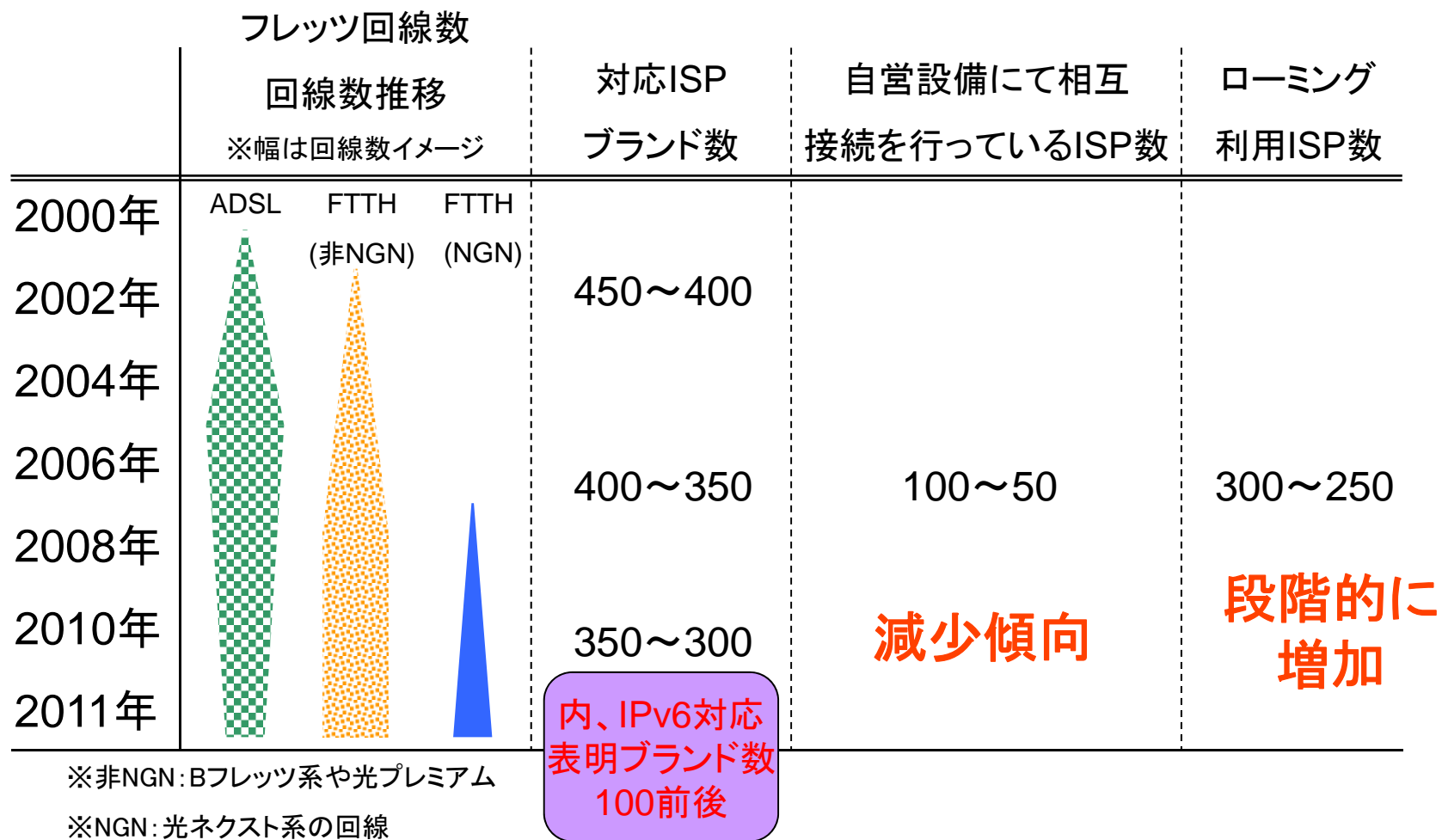
弊社は、VECTANTブランドによるネットワークインフラを構築し、多くのISP等の事業者にもローミングサービスを提供

ISPへ取り巻く環境は更に複雑に！



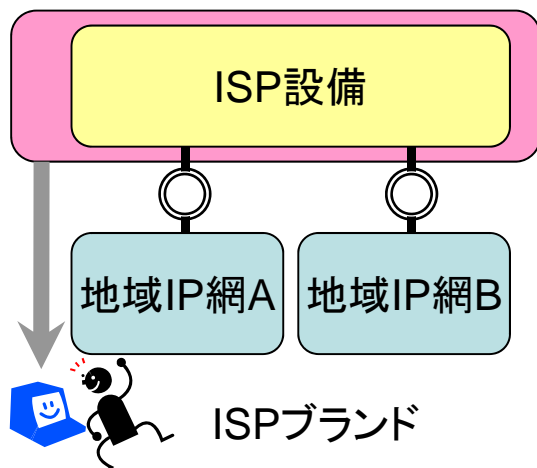
フレッツサービス対応のISP数

※弊社推定 2011年6月現在

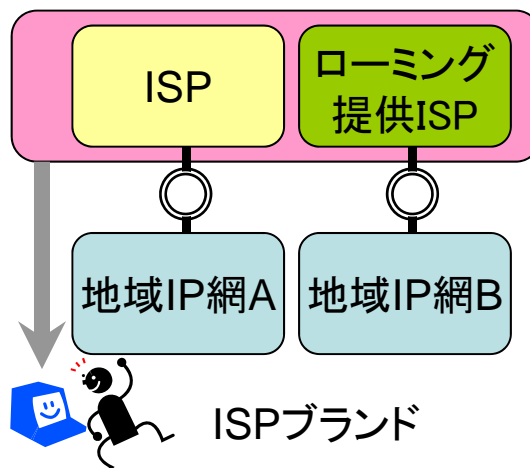


ISPと地域IP網(フレッツ網)との接続形態や特徴

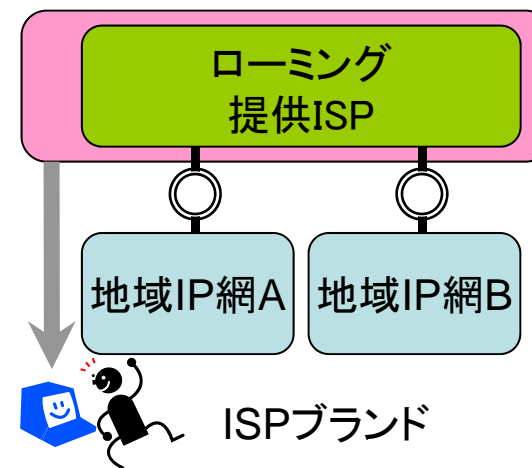
全て自営設備



一部自営設備



ローミング利用



設備面 <ul style="list-style-type: none"> ・インフラ構築、運用 ・上流(トランジット)の調達 ・回線事業者との接続 	設備面 <ul style="list-style-type: none"> ・インフラ構築、運用 ・上流(トランジット)の調達 ・自社対応分における回線事業者との接続 	設備面 <ul style="list-style-type: none"> ・最小限のインフラ構築、運用 ・上流(トランジット)の調達
サービス面 <ul style="list-style-type: none"> ・メニュー対応は自社にて判断が可能 	サービス面 <ul style="list-style-type: none"> ・メニュー対応はローミング提供事業者と調整 	サービス面 <ul style="list-style-type: none"> ・顧客対応に集中が可能 ・メニュー対応はローミング提供事業者次第

ローミングを利用する事業者(ISP)の形態

ローミング:最終認証をISPで行うケース

中小ISP、地方ISP等の利用

(利用例)

- ・地方ISPが自社周辺エリアは、自営設備によりNTT東西との接続を行い、その他のエリアはローミングを利用することで全国展開サービスを実現
- ・ナローバンドサービスは従来の自営設備を維持、ブロードバンドサービスは、ローミングを利用しフレッツサービスメニューを実現

OEM:アカウント発行や最終認証を弊社で行うケース

マンションISP、NierやSier等が利用

(利用例)

- ・マンションの居住者向けにインターネット接続を提供している事業者
- ・自社のICTソリューションとフレッツ回線メニューをセットで提供する事業者

弊社のIPv6対応状況

アクセス回線メニュー対応(フレッツ対応)

- ・NTT東西のフレッツ光ネクスト系の全ての回線に対応予定
- ・既存のIPv4とセットで現状のコンセプトを踏襲した提供(7月開始予定)
- ・ネイティブ方式の利用においてはISPが負担する費用についても検討しやすい価格をご用意

ローミングを利用するISPがIPv6インターネット接続サービスを提供するための環境を準備

トランジットの利用状況

ISP・データセンターに対するトランジット回線はIPv6対応済み
昨年後半からお客様(事業者)の対応や問合せが増加

お客様(事業者)の対応状況

カテゴリ	IPv6サービスの利用状況 ※利用中又は利用準備中
地方ISP系	25%
CATV事業者系	10%
データセンター系事業者	40%
CSP/ASP系事業者	30%

まとめ

- ・ローミング事業者は、IPv6サービス提供準備完了(7月)
利用しやすい環境も提供中
- ・ローミング利用は、自営設備のIPv6対応との比較において早期の導入が可能